

以下は、NPO 官製ワーキングプア研究会からの依頼で書いた、「9.13 雇用を語ろう！大集会」(2014年9月13日開催 @北海学園大学)の報告です。『NPO 官製ワーキングプア研究会 Report』2014年10月号(第12号)に掲載されています。なお、文中の報告者数「14名」は「15名」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

# つながって考えた、つながって声をあげた 「9.13 雇用を語ろう！大集会」に250人

川村雅則(北海学園大学)

## ◆雇用大集会が開催

9月13日(土)「雇用を語ろう！大集会」が開催された。主催は札幌地区連合、全建総連札幌、札幌地区労連、反貧困ネット北海道、日本労働弁護団北海道ブロックで、札幌市の公契約条例制定を目指してきた労組・弁護士・研究者らだ。実行委員の一人として、この集会にこめた思いや、個人的感想をまとめた。

## ◆キーワードは雇用と政治

集会テーマは、公契約条例にとどまらない。「現場から雇用の実態を語ろう！」「現場の声で自治体から雇用を変えよう！」をスローガンに、官からも民からも雇用の実態が報告され、パネルディスカッションでその解決策をひろく考えた。キーワードは「雇用と政治(地方政治)」だ。

政治といえば、とかく国政だけに目を向けがちだ。しかし地方政治という、いわば「足下」の民主主義を強化することも負けず劣らず重要である(職場という「足下」ももちろん)。それは、公契約条例の制定に取り組んできた過程で学んだ教訓でもある。三連休初日にもかかわらず、主催者の予想を上回る250人が参加。

## ◆雇用の現状をあらためて可視化し共有したい

建設技能労働者／特養で働く介護労働者／札幌市の非常勤職員／区役所・区民センターで働く清掃労働者／児童会館職員／民間の学童保育指導員／保育所で働く非正規保育士／郵政で働く非正規労働者／消防自動車の製造労働者／非正規タクシー運転者／非正規教職員／ハローワーク非常勤職員／アルバイト学生。

報告者は文書報告含め15名。「現場からの報告」を重視した。理由はこうだ。

非正規雇用はいまや全労働者の4割に達しようとしている。しかし、目の前にいる労働者が果たして正規雇用なのか非正規雇用なのか、またその労働条件がいかなるものかを知ることは難しい。自分の子どもを預ける保育士がまさか非正規だと思うか？教壇に立つのが非正規教員だと分かるか？求職者

の相談にのる職員自身がじつは1年の有期雇用であることは？

仕事は恒常的に存在するのに有期で雇われ、物言えず不安を抱えて働く不条理。仕事や責任は正職員と同じでも賃金には大きな(言われ無き)格差が存在する不条理。非正規を中心とする、こうした雇用の実態をあらためて可視化してみんなで共有したい、そこから運動は始まるのではないか。そういう思いがあった。

## ◆政治は問題にどうこたえるのか

これらの問題について札幌市議全員に公開質問を行った。残念ながら回答数やその内容は我々が期待していたものには遠かった。しかしこれこそが、雇用に対する地方政治の現状をあらわしているのかもしれない。

「政治に声を届ける」という言葉が使われる。しかし声はどうすれば政治に届き、受け止めてもらえるのか。公契約条例案が1年半もの長きにあたり「継続審議」という名で店ざらし状態になっていた事実を考えるならば、「自分の支持する政党が伸びれば」自動的に問題は解決するという楽観的な気持ちにはなれない。議員の学習・調査研究、議会内での徹底した審議など政策立案機能を強化することも我々の課題ではないか。

## ◆地域の雇用問題と運動の交流センターを

この間の公契約運動と同様、本集会にも、ナショナルセンターや業種を超えた労働組合、全道そして全国にネットワークをもつ弁護士団体、そして反貧困を掲げる市民団体が集った。今回の集会の成功要因は、やはり労働組合の共同が大きかったと思う。運動がつくる出会いを大事にしたい。

何か行動したい、何か行動しなければ。大勢の参加者のこうした思いを運動につなげることが課題である。地域の雇用問題と運動の情報交流センターをつくることはできないか。「情報社会」と言われながらも、雇用の実態がまだまだ知られていない現状の打破を真剣に考えねば。現場からのリアルな報告を聞きながら漠然とそんなことを考えていた。

研究会に集うみなさんの一層のご協力をお願いしたい。(写真：現場からの連続リレー報告)